

平成30年度第3回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

【開催概要】

開催日時：平成31年3月28日（木）午後2時から午後3時15分

開催場所：リサイクルプラザ2階 大会議室

【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境部長あいさつ
- 4 前回の議事録確認
- 5 諮 問
一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について（諮問）
- 6 議 事
(1) 一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について
(2) 専門部会の設置について
(3) 平成30年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について
(4) 平成31年度ごみ処理実施計画具体的施策（案）について
- 7 その他
長野市廃棄物減量等推進審議会 平成31年度開催計画について
- 8 閉 会

【会議資料】

- ・資料1 一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について（諮問書写し）
- ・資料2 一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について
- ・資料3 平成30年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について
- ・資料4 平成31年度ごみ処理実施計画具体的施策（案）について
- ・資料5 長野市廃棄物減量等推進審議会 平成31年度開催計画
- ・参考資料1 平成30年度ごみ処理実施計画 具体的施策一覧
- ・参考資料2 平成31年度ごみ処理実施計画 具体的施策(案)一覧
- ・平成30年度第2回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】
- ・家庭用資源物とごみの出し方保存版
- ・えこねこ通信第11号
- ・サンデーリサイクル小型家電回収日程表
- ・豊野地区の皆さんへ家庭ごみの出し方の一部変更について
- ・ながの環境エネルギーセンターパンフレット
- ・長野市廃棄物減量等推進審議会名簿

【出席委員】	13名
【欠席委員】	2名
【事務局】	14名
【報道・傍聴者】	1名

【会議内容(要旨)】

1 開 会

会議の成立と公開について報告（事務局）

2 会長あいさつ

平成30年度第3回長野市廃棄物減量等推進審議会の会議開催に当たり、一言ごあいさつ申し上げる。

最近は、暖かくなったり寒くなったりする春らしい気候になっている。

年度末の忙しい中、多くの皆さまにご出席いただき、誠に感謝する。

本日は、し尿と生活雑排水の処理手数料の改定について、諮問をいただく。現行の手数料が適正なものか確認し、答申をまとめていく第一歩となる。諮問の後、し尿と生活雑排水の処理手数料の概要を事務局から説明をいただく。

その後、ごみ処理実施計画における平成30年度の具体的施策の実施状況と平成31年度の具体的施策案について審議していただく。

なお、本日の審議会が、平成最後の審議会となっている。平成最後の締めこむにふさわしい会議になるようご協力のほうをお願いします。

本日はよろしくをお願いします。（会長）

3 環境部長あいさつ

審議会の開催に当たり一言挨拶を申し上げます。年度末のお忙しい中、ご出席いただき、誠に感謝する。昨年は、ごみ処理手数料の改定について、ご審議をいただいた。いただいた答申を尊重させていただき、昨年12月の市議会定例会で条例を改正させていただくことができた。現在4月からの施行に向け、広報などで準備を進めているところ。今年、し尿と生活雑排水の処理手数料の見直しの年を迎えている。3年ごとにご審議をいただいているが、実際にご審議いただくのは新しい元号になってからになる。よろしくをお願いします。

今年度、一番大きい出来事は、後ほどご視察いただく長野広域連合ながの環境エネルギーセンターが3月1日から稼働したことである。振り返ると昨年は、リサイクルプラザとサンマリーンながのをご覧いただいたことを思い出す。一年経ち、ながの環境エネルギーセンターが稼働した。なお、リサイクルプラザとサンマリーンながのは、ながの環境エネルギーセンターで発生した熱を冷暖房へ利用している。ながの環境エネルギーセンターが稼働する前は、重油を使って熱源確保していたが、試運転中からごみを焼却して発生した熱をリサイクルプラザやサンマリーン

ながのへ回して活用していた。

ながの環境エネルギーセンターの試運転は9月から始まり、10月からは本市のごみを搬入した。試運転中の2月末までに約34,000トンの本市のごみを処理し、3月1日の供用開始前までに市民の皆さんの生活に影響がないように準備を進めてきた。

そして、今月供用開始したわけであるが、本市のほかに須坂市、信濃町、飯綱町、高山村及び小川村の6市町村の家庭・事業系ごみを搬入してごみ処理の広域化を図っている。

ごみ処理の広域化を実現するまでには、紆余曲折があったが、審議会の委員の皆さまには大変お世話になった。特に、審議会の会長である松本会長には、長野広域連合の様々な検討の場で大変ご尽力いただいた。心よりお礼申し上げます。

また、新聞でご覧になった方もいらっしゃると思うが、エネルギーセンターという名のとおり高効率発電の設備を備えた施設であり、ごみを発電に使っているわけだが、4月からは市立の小中高校80校の電力全てを、ながの環境エネルギーセンターで発電した電気を供給する予定である。

記憶に新しいが、去年は記録的な猛暑であった。本市のみならず、全国で今年の夏に向けて、学校へのエアコンの設置が進められていると思う。そのため、今年の夏は全国で電力使用量の増加が予想されるが、本市では、ながの環境エネルギーセンターで発電した電力で十分対応できる見込みである。それに伴い、CO₂の排出量が激減し、正に電力の地産地消が図られるようになる。

また、視察の中でご覧いただくが、本市の清掃センターには、多くの小学校の皆さんが見学に来ていただいております。ながの環境エネルギーセンターでもこれを継承していく。そのために環境学習コーナーを併設しており、ごみの歴史やごみを焼却処理する過程を楽しみながら体験しながら学ぶことができる施設を整えている。ぜひご覧いただきたい。

まだ楽観はできないが、現在ごみ量が平成史上最低になる見込みである。市民の皆さまや事業者の皆さまには、ごみの減量についてご理解ご協力いただき、ありがたいことだと思っている。

あいさつが長くなったが、お許しいただきたい。委員の皆さまには幅広い見地からご意見を出していただきたいと思う。よろしく願います。(環境部長)

4 前回の議事録確認

事前に送付した平成30年度第2回審議会の議事録(要旨)の確認。修正箇所なしで承認。

5 諮問

「一般廃棄物(し尿及び生活雑排水)処理手数料の改定について」諮問書を環境部長から会長へ手交

6 議 事

(1) 一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について

◇資料 2 「一般廃棄物（し尿及び生活雑排水）処理手数料の改定について」により説明（事務局）

（水野委員） し尿と浄化槽汚泥の比率はどうなっているのか。し尿も浄化槽汚泥もバキュームカーで収集していると思うが、その割合はどうなっているのか。

（事務局） 本市のし尿と浄化槽汚泥は、市衛生センター、千曲衛生センター及び須高衛生センターで処理している。市衛生センターの平成 29 年度の割合を申し上げると、7 割が生し尿、2 割が浄化槽汚泥、1 割が農業集落排水となっている。

（松本会長） 長野市の場合は比較的し尿の処理量が高い特徴があると思う。

(2) 専門部会の設置について

専門部会の設置について了承。専門部会の委員として、事前に内諾をいただいている筧委員、絹川委員、竹重委員、鄭委員、松本会長、水野委員及び森山委員の 7 名にご就任いただきたい。（事務局）

(3) 平成 30 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について

◇資料 3 「平成 30 年度ごみ処理実施計画における具体的施策の実施状況について」により説明（事務局）

(4) 平成 31 年度ごみ処理実施計画具体的施策（案）について

◇資料 4 「平成 31 年度ごみ処理実施計画具体的施策（案）について」により説明（事務局）

（小木曾副会長） 今年度は、短大生の卒業研究に災害備蓄用クラッカーを取り扱った。

新年度は、アルファ化米と言って、お湯を注いで何分か経つとご飯に戻るものがある。賞味期限を迎えるものを利活用できないか県立大生 2 年生の有志とともに研究する予定。

（筧委員） 平成 31 年度ごみ処理実施計画の具体的施策についてであるが、この施策を実施すれば、具体的にどのくらいごみが減るなど、積み上げみたいなのはあるのか。実は今年度、生ごみ堆肥化をやってみた。生ごみだけで毎日何グラムでるかも集計してみた。おおよそ 1 月に 8 キロ出る。年で換算すると 100 キロ出ることになる。

市では、生ごみの堆肥化や自家処理を推進し、生ごみ自家処理機器の購入費には補助金を出していると思う。

私は安茂里の環境部会長として、毎年段ボールの生ごみの堆肥化の講座を開催させてもらっているが、その中で出る意見で、せっかく堆肥化しても使うところがないという声を聞く。だから、生ごみの堆肥化はめんどくさいと言う方も多いが、自分でもびっくりしたように一軒で年間 100 キロ減量できるのは非常に大きなことなので、むしろ堆肥化したものを回収するシステムを作っていたらいいのと、発酵材みたいなものを補助することができればもう少し普及するのではないかと思う。

(事務局) 項目ごとに市民一人一日当たりどのくらい減るとするのは、算出していない。これらの施策を総合的に実施し、数値目標と達成したいということにしている。

また、生ごみの堆肥化は、ごみ減量にかなりの効果があるとは思っているが、やはり堆肥化したものを処分できないで断念する方や臭気で嫌がる方がいる。堆肥化したものについては生活環境課で回収しているが、なかなか広まっていないというもの事実ではある。他市町村では、堆肥化したものを持ってくると、ポイントが貯まり、一定程度貯まると野菜とキットを交換するという施策をやっているところある。本市でできるかというのは検討の余地があるが、貴重なご意見としてうけ賜わる。

(西澤委員) 排出困難者への支援についてはどの程度進んでいるのか。

私の地域では、指定袋にリボンのようなものを貼って、例えば玄関先に出しておいて、気が付いた人がボランティアで集積所まで持って行くことをやろうという話がなかなか進まないで困っている。他の地域の事例があれば教えていただきたい。

ちなみに、指定袋に支援者である旨のシールを張った時に問題になるのか。

(事務局) 川中島地区で不燃ごみの手伝いをしている。中山間地では、中条地区で住民の助け合い活動の中でごみ出しの支援をしているものもある。また、社会福祉協議会が取り組んでいるものとして、有料の家事援助のサービスがある。いずれも地区や団体の自主的な活動になる。

環境部では、対象のお宅へ直接収集ができるか検討すべきところであるが、まずは住民の皆さんによる自主的な活動を支援し、その中で必要な対応があれば検討していきたい。現在具体的なことを実施している段階にはなっておらず、排出困難者への対応については国の動向も踏まえ、検討していきたい。

支援者である旨のシールを貼ることについては、問題ない。

(徳武委員) 平成 31 年度の具体的施策に事業ごみの処理ガイドの発行 1000 部というのがあるが、どのようなものでどのようなところへ配るのか。飲食関係に配るのか、長野市の事業者数からすれば 1000 部と少ないと感じる。

(事務局) 現在、市では事業者に対し 2 つの冊子を発行している。1 つ目が事業ごみの出し方分け方、2 つ目が事業ごみ減量マニュアルになる。事業ごみの処理ガイドは 2 つの冊子を合わせて現在作成している。

平成 31 年度については多量排出事業所へ配る予定でいる。

(鄭委員) 環境教育の充実のところで、高校生や大学生に対する環境に関する意識調査とあるが、これは毎年やっているのか。もしやっているならば、毎回どのような傾向があるのか、そしてその傾向に基づいて次の環境教育の在り方をどのように考えているのか。

(事務局) 毎年環境部にインターンシップで学生が来る。その学生にアンケートを取り集計している。アンケートの内容としては、国の環境白書と同様のものを聞いている。特に、平成 29 年度は長野県立短期大学の学生、信州大学教育学部・工学部の学生に集まっていたが、ながの環境未来ディスカッションを開催し、その中でアンケートを行った。

学生に答えて頂いたアンケートの結果などを見ると、国の結果と比べて、環境に対する意識が高い傾向にある。環境部にインターンシップに来ている学生なので当然ではあるが、こういう結果をもう何年か累積し、若い学生達がごみを減量するためにはどういう啓発をすると興味を持ってもらえるか調査していきたい。

6 その他

- ・長野市廃棄物減量等推進審議会平成 31 年度開催計画について資料 5 により説明
- ・事務局転退職員あいさつ
- ・本日の議事録は、事務局でまとめたものをお送りし、承認後に公開したい。簡単な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。(事務局)

7 閉会

(午後 3 時 15 分閉会)